

未来の平和に向けて

郡山ザベリ才学園中学校

三年 鈴木 夕里菜

私は、修学旅行で広島へ行き、平和についてたくさんを感じ、考え、学びました。

私たちが平和セレモニーを行った広島平和記念公園とその周辺は、第二次世界大戦終戦の年に原爆が投下されたとは思えない程きれいに整備されています。また、二度と戦争をしてはいけないという広島の人々の強い思いが込められている場所だと感じました。また、オバマ大統領が伊勢志摩サミットの後に、アメリカの大統領としては初めて広島を訪れて献花し、演説を行った場所であることがどれだけ意味があることを改めて感じました。

その後、原爆が投下された当時に学生だった植田さんの話を聞くことができました。その話を聞いていると、植田さんがどれだけ大変な思いをされていたのか、また、原爆が落とされた当時の光景が目にはつきりと浮かんでくるような語り口でした。今は平和な日本でも、大変なことが実際に起きたのだから心に深く焼き付きました。

植田さんは、毎日生きていることに幸せを感じ、未来に希望を持って生活していると話されています。私は普通に生きていること、生活していることが当たり前だと思っていました。その話を聞いて

今の自分がどれだけ幸せであるかを改めて感じました。戦争は、普通に生活している人まで巻き込み、戦争の最前線にいた人たちは絶命した方もいて誰一人幸せになることのない、残酷なものだということを決して忘れてはいけないと思いました。また、植田さんから「絶対に戦争はしないでください。」と言われました。しかし、今の日本は、第二次世界大戦の前の雰囲気とよく似ている、とも話されています。また、この話をしていた後に、「私たち一人ひとりは大切な宝物だから、戦争など命を粗末にしてはいけない。」

ともおっしゃっていました。一つの原因で苦しめられたたくさんの方々の思いをしっかりと心に留め、戦争は二度とやっではないと強く思いました。そのために、今回聞いた戦争や核兵器の恐ろしさ、平和の大切さなどをたくさんの方に伝えたり、周りの人を大切にしたり、世界平和のために自分ができていることを精いっぱいやりたいと思います。

そして、被爆ピアノ演奏会が開かれました。被爆ピアノ、どんなピアノなのだろうととても気になっていました。それは、広島市の原爆が投下される前からあったアップライトピアノです。八月六日に原爆が投下され、何十年も誰にも弾かれることがなかった間に音が出なくなっていました。しかし、調律師が丁寧に直して音が出るようになったそうです。被爆ピアノは、私が安易に弾けるピアノではないと感じました。しかし、演奏会終了後、調律師の方が、被爆ピアノを自由に弾くことを勧めてくださいました。「私が今、暗譜で弾けるのは華やかな曲、被爆の話を聞いたら、このピアノで華やかな曲は絶対に弾けない。」と思っていた時、校長先生が私の背中を押してくださいました。そして、私は校歌を弾き、皆が歌いました。予定のない出来事に一体感

が生まれ、とても感動しました。このピアノはとても弾きやすく、しっかりと手入れされ、大切にされているピアノだと感じました。近くで見えたピアノの外見は、原爆の被害で傷だらけでした。私は、生涯の宝となるとても貴重な経験をさせていただきました。

私たち日本人は、第二次世界大戦以降、平和な暮らしが当たり前になっていますが、世界各地では戦争や紛争、テロが絶えず続いています。そのように戦争や紛争が続いている場所では、学校に行ったことのない子どもたち、強制労働をさせられている小さな子どもや女性がたくさんいて、自由のない生活をしています。私は、今の生活に感謝をすることをしたいと思います。今、自分が何不自由なく行っている生活が当たり前になってしまうと、地球上のどこかで苦しんでいる人々を助けることができないうところからです。次に、自分自身が平和の道具となり、世界平和の大切さを訴えかけることもしたいと思います。国、言語、肌の色、民族、性別などの違いであらゆる形で差別されてしまうような世界ではなく、みんなが平等にあらゆることをできる世界にしたいと思っています。世界中の全ての人が毎日安全・安心な暮らしができること、お互いを尊重し合える社会づくり、そのような世界を作っていきたいと考えています。私一人の力はとても小さいものかもしれませんが、誰かが声を出していかなければ何も変わらないと思います。一人の声がやがて周りの同じ意見を持つ人に伝わり、そして、伝えた人たちがまたさらに自分の周りの人たちに伝えていく、そうすることで、戦争や紛争のないよりよい社会ができるのではないかと思います。これから生活していきたくて考えています。

作文を書くに当たって

広島への修学旅行で、原爆投下の被害の様々なことを見聞きし、傷だらけの被爆ピアノを弾かせていただきました。一つの原因で苦しめられたたくさんの方々の思いをしっかりと心に留め、戦争は二度とやっではないと強く感じました。私は、自分自身が平和の道具となり、世界平和の大切さを訴えかけていきたいと思います。